

さらに工期延伸・負担増 知立駅付近連続立体交差事業

■見直しの概要

事業期間: 2028(令和10)年度 ▶ 2031(令和13)年度完了

【主な要因】

- ・鉄道の運行の安全性に配慮したことにより、想定以上の期間を要したため
- ・国の働き方改革により、現場での稼働時間が短くなったため

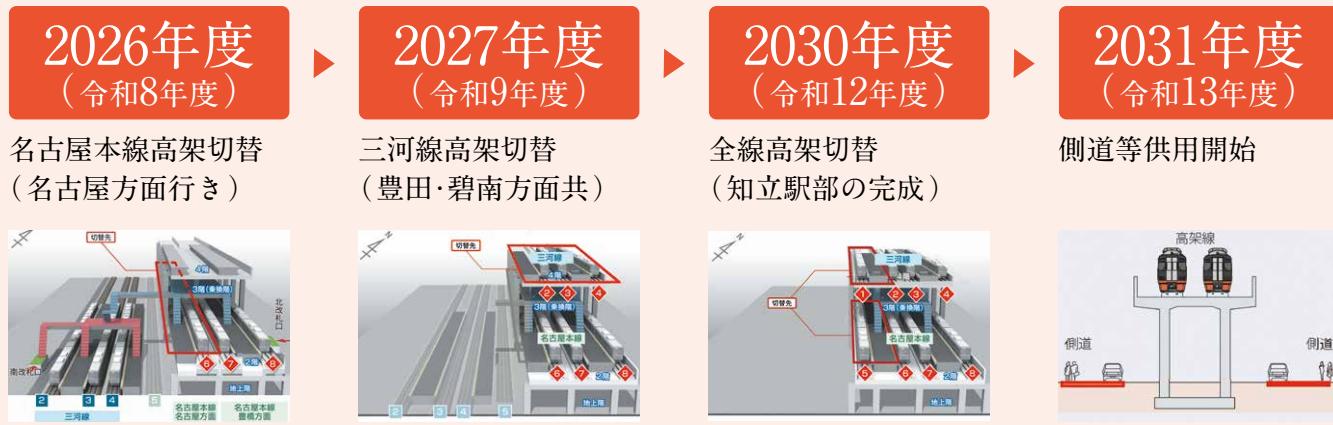
事業費(市負担額): 約125億円 ▶ 約149億円 (+24億円)

【主な要因】

- ・労務単価や資材単価等の上昇
- ・想定が困難な要因による変更
- ・安全対策、環境対策の追加・変更

	変更前	変更後	増加額
国庫	約361億円	約454億円	+93億円
県費	約178億円	約232億円	+54億円
市費	約125億円	約149億円	+24億円
名鉄	約128億円	約160億円	+32億円
合計	約792億円	約995億円	+203億円

■事業効果の発現



議会での質疑内容

市は11月4日に県からの報告を受け、議会へは11月14日に全員協議会で説明されました。それを受け11月18日に知立駅周辺整備特別委員会を開催し、12月8日からの一般質問で5人の議員が関連の質問をしました。

Q 2025年9月議会では延伸はないと答弁していたが、県から事前説明はなかったのか。

A 県からは2025年11月4日に見直しの内容について報告があった。

Q 延伸の理由は何か。

A 乗客の安全性確保をしながらの工事で想定以上の期間を要したことと、働き方改革により工事現場の稼働時間が短くなったため。

Q 今回の延伸は事業主体である県と名鉄に責任がある。市は途中報告も受けていないのになぜ負担増を受け入れなければならないのか。

A 物価高騰が要因であるため、県や名鉄に責任があるものではなく、市としても一定の負担は必要と考えている。

Q 高架事業の遅れにより、知立南北線、駅前広場、駅前公園などの整備スケジュールはどうなるのか。

A 今後、精査が必要なので、整理でき次第示す。

Q 前回の延伸では令和8年度から15年度に知立駅周辺土地区画整理事業が遅れ、14億円の増額となったが、今回はどうか。

A 三河線の高架工事や掘切地区の仮線撤去の時期に変更はないが、事業費の精査はこれから行う。

